



宮木裕司(みやぎ・ゆうじ)氏
県立静岡がんセンター 検診センター医長
1991年医師免許取得。大学関連病院で産婦人科医療に従事し、国公立病院で臨床医として勤務する。2005年より現職。専門は婦人科領域腫瘍。産科婦人科専門医。医学博士。

定期的ながん検診を

がん検診にはいろいろな機会があります。特に居住地の自治体からお知らせがあるがん検診は誰でも受けられます。しかし、すでに自覚症状がでてくる人は病気の疑いがあるため、がん検診を受けるのではなく、お医者さんにかかってください。

さて、がん検診で検査の対

象となるがんは、胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、子宮がんです。胃がん、大腸がん、肺がん検診は40歳から年1回、乳がんは40歳から2年に1回は検診することになって

います。子宮がんは若い人がかかることが多くなってきたので20歳から2年に1回は検診することになってい

ます。定期的な検診にはどんな利点があるのでしょうか。

検診で高い生存率を

専門医のいる医療機関を受診しましょう」という通知が来た

検診を受けると、どのくらいの人に、精密検査が必要となるのでしょうか。平成19年の厚生労働省の報告によると、検診を受けた人のうち胃がんは10%、肺がんは2.8%

、大腸がん7.3%、子宮がん1.1%、乳がんは8.6%の人に精密検査が必要でした。精密検査の結果、がんが発見された人数の割合も出て

います。胃がんは1.5%、肺がんは1.7%、大腸がん2.4%、子宮がん4.8%、乳がんは3.2%の人にがんが見つかりました。

早期発見〜ひどくなる前に〜

県立静岡がんセンター 検診センター医長

宮木 裕司 氏

肺がんは1.7%、大腸がん2.4%、子宮がん4.8%、乳がんは3.2%の人にがんが見つかりました。

がん検診は、がんの気配、兆しを見つけ出すために「がん

を見つけて出すために「がんかもしれない」というものを探し出します。とりあえず怪しいものを全部捕まえるので捕まえたけれども悪者ではないケースもあります。精密検査が必要とされてもっと詳しく調べたらがんではなかった、という場合の方が多いのです。「精密検査が要ります、

方」の割合を比べてみると、胃がんを検診で発見された人は89%、症状が出て病院で発見された人は50%、同様に肺がんは53%と20%、乳がんは95%と88%、子宮がんは97%と81%、全体では87%と58%で、がんでの死亡の比較ではないものの、がん検診でがんが見つかった場合の方が長く生存していることが分かります。

調子がおかしかったら、早く受診を
がんがまだ小さいなど、ひどくなっていない時は発見することはできません。しかしがんは時間と共に大きくなるなど、次第に病気の程度がひどくなりますので、繰り返し検診を受ければやがて発見される時が来ます。

現実的ながんの発見方法は二つです。一つは定期的な検診(検査、診察)で、病気を

上手ながん治療の受け方

県立静岡がんセンター公開講座第6弾「上手ながん治療の受け方」(静岡新聞社・静岡放送、三島市民文化会館主催、県立静岡がんセンター共催、スルガ銀行特別協賛)の最終回が3月20日、三島市民文化会館で開かれ、宮木裕司検診センター医長と山口建総長が「早期発見〜ひどくなる前に〜」、「茜秋期を生きる〜身体と心の健康を〜」をテーマに講演しました。その概要をお伝えします。

＜企画・制作/静岡新聞社企画事業局＞

60歳以上は茜秋期(せんしゅうき)

長年、がんの患者さんとお付き合いしながら、おおよそ60歳以上、サラリーマンや公務員なら一仕事を終えた世代の生き方を考えてきました。

60歳になり還暦と言われると、何となく社会で日の当たらない存在になった気がします。しかし、定年後も、第二の人生で額に汗しながら働いている人はたくさんいます。

80、90歳といえども、多くの人が仕事や趣味に充実した暮らしを送っており、主婦と

茜秋期を生きる〜身体と心の健康を〜

県立静岡がんセンター 総長

山口 建 氏

身体は衰え、心は若さを保ち、知恵は増え続ける

茜秋期は人生でどのような時期でしょうか。それは、身体

の瞬間まで増え続けます。知恵を増やそうと頑張る必要はありません。人との交流を大切に

いと身体や心の不調が生じます。不調とまではいかなくとも大切な感覚が衰え、また、

現代社会を生きる

身体は衰えとともに、心も老いてしまおうと考えたら、それは誤りです。幸い、私たちの心は老いる臓器ではありません

現代人は、文明と科学の進歩により、かつては想像もできなかったような、便利で、スピード感にあふれ、刺激的

も、生きていくことになんかの支障もなく、それよりもっと大切なことがあると知れば悩

れば、早く診断され早く治療にたどり着き、健康な期間をより長くすることができま

今年度は静岡市で開催

2010年度県立静岡がんセンター公開講座は静岡市葵区の静岡市民文化会館で開催します。5大が

海外で使われている新しい治療法や民間療法はすぐに使えないのですか。
科学的に治療効果が証明されているものは、日本に導入されています。一方、その証明がない、いわゆる民間療法は、効果がなく、お金がかかり、時に副作用も出ることがあります。患者の心のケアに有効な音楽などは活用すべきでしょう。

質問 海外で使われている新しい治療法や民間療法はすぐに使えないのですか。

山口

生きる意味を問う

茜秋期は、時に、生きる意味を見失う時期でもありません。仕事や子育てや家庭や健康が生き甲斐であったのが、

腫瘍マーカー検査の精度は。マーカー検査の陽性反応だけではがんがあるという証明にはなりません。がんの特定には総合的な検査が必要です。一方、手術後のマーカー検査は再発の兆候をとらえるために重要です。数値の変化をモニターし、上昇したら再発の可能性があるというサインになります。

質問 腫瘍マーカー検査の精度は。

宮木

タウンミーティング ◆質疑応答◆

「当たり前だと思っていたことが、どれだけ幸せなことか身に染みて分かった」というような言葉をよく聞きます。こういう人たちは、人間としての大切な感覚を取り戻し、

てくるものの一つが森羅万象です。これは、宇宙に存在する数限りない一切のものを指す言葉ですが、ここには、太古の昔から、人が見つめ続けてきた人間にとってかけがえのない自然、人々の心、社会との交流などが含まれます。生き甲斐を自分の周りの人びとや「もの」に求めず、自分自身で完結させることができる対象を見つけ、心の眼を開き、森羅万象を友として生きることが茜秋期の悟りだと思えます。

森羅万象を友として

心の眼が開き、新たに見え